

# もののけだより

vol.5 平成30年7月

## 女子美術大学と「妖怪」を生かしたまちづくりに取り組みます (仮称)MONONOKE Café プロジェクト始動！

6月6日(水)、三次市は学校法人 女子美術大学\*と「地域活性化に係る事業連携に関する覚書」を締結しました。地域の活性化や人材の育成を目的とし、妖怪を生かした文化・観光まちづくりや、児童・生徒を中心とした教育支援に連携して取り組みます。

今年度は、市内の高校生等の参加を得て、女子美術大学の指導を受けながら、レシビやデザインを含むもののけメニューや喫茶店のアイテム(カップ、コースター、コスチューム、トレイ等)のデザインを開発し、仮想の喫茶店「MONONOKE Café」のメニュー等デザイン集を制作します。

※学校法人 女子美術大学について

女子美術大学は、女性に対して美術教育への門戸が開かれていなかった明治33年に「芸術による女性の自立」等をめざして、美術教育を行う学校として創立された。通常の美術学科のみならず、先端テクノロジーを用いたインタラクティブアートやアニメーションなどを取り扱うアート・デザイン表現学科など、実践的なカリキュラムが行われている。



(左) 増田市長、(右) 女子美術大学 福下理事長

## 名古屋パルコ「妖怪・ミイラ展」盛況！約1万人が来場！

4月21日(土)から5月13日(日)にかけて、名古屋パルコで開催された「妖怪・ミイラ展～浮世絵から幻獣ミイラまで～」が、約1万人の来場を得て幕を閉じました。初公開の絵巻から河童や人魚のミイラまで、三次市所蔵の湯本豪一コレクションから厳選した資料30点と、木原浩勝さん(怪異蒐集家)所蔵の件(くだん)のミイラとポスターが展示されました。妖怪ファンはもちろん家族連れなど多くの皆さんが写真を撮ったり、熱心に資料を見るなど楽しんでいました。



(左) 湯本豪一さん、(右) 木原浩勝さん



会場内風景

来場者からこんな声も！



◆40代男  
湯本先生に会いたくて来場した。妖怪グッズを集めており、妖怪展があったらよく足を運ぶ。会場で写真を撮ることができるのは驚きだった。三次に妖怪博物館ができれば、ぜひ行ってみたい。

◆30代のお父さんと来ていた7歳の女の子  
湯本先生の本を購入しサインしてもらった。将来は心霊研究者になりたい。妖怪大好き！

◆40代のお父さんと来ていた8歳の女の子  
妖怪が大好きで来場した。「稲生物記録(写本)」を初めて見たがとても面白かった！



【問い合わせ】  
広島県三次市政策部 三次地区拠点施設開設準備担当  
TEL: 0824-62-6158 FAX: 0824-62-6137  
平成31年春 開館 湯本豪一記念日本妖怪博物館  
(三次もののけミュージアム)



## 日本スペイン外交関係樹立150周年記念展覧会がマドリードで開催 三次市所蔵の妖怪資料83点が海を渡ってスペインへ！



ひゃっさやぎょうまき  
「百鬼夜行絵巻」  
江戸時代(部分)

※百鬼夜行絵巻とは、様々な妖怪たちが闇の中を列をなしてどこかへ向かう様子、気ままに跳躍する姿を描いたもの。



ひゃっさやぎょうまき  
「百鬼夜行図着物」  
江戸時代以降

日本とスペインの外交関係樹立150周年の記念行事として、スペインの首都マドリードで、王立サン・フェルナンド美術アカデミーと国際交流基金の主催により、三次市所蔵の妖怪資料83点で構成される展覧会が開催されます。同アカデミーでは、平成26年に、日本スペイン交流400周年事業として、浮世絵展を実施したこともあり、江戸時代の美術品を中心に構成される本展に強い関心を示し、開催の運びとなりました。

本展は、江戸時代に庶民にまで広がった「妖怪文化」を、絵巻物や錦絵を中心に、着物や根付、鐙や小柄などの武器、皿や瓶、子どもたちのおもちゃといった資料展示により紹介するものです。

日本においては、古くは室町時代に描かれた「百鬼夜行絵巻」に妖怪たちの姿を見出すことができます。これらの妖怪は、天変地異や天候の変化、疫病など、自然に対する畏怖や心の不安から生み出されたと考えられています。その異形の姿は、百鬼夜行絵巻にならって描き継がれるものや新たに生み出されたものなど様々です。江戸時代に至って木版印刷が盛んになると、情報が整理され、広く一般に共有されるようになりました。

本展は、これまでスペインで紹介されることの少なかった絵巻物を中心に、「妖怪」という切り口から広く日本の文化を紹介します。

### 開催概要

- 【展覧会名】 日本スペイン外交関係樹立150周年  
「妖怪: 想像のイコノグラフィー 日本の超自然的イメージの起源としての百鬼夜行」
- 【会期】 平成30年7月17日(火)～9月23日(日)
- 【会場】 王立サン・フェルナンド美術アカデミー(スペイン マドリード)  
※フェルナンド6世によって1752年に創立されて以降、美術教育の上で重要な役割を果たしてきた。かつてはゴヤがディレクターをつとめ、ピカソやダリも在籍した。
- 【主催】 国際交流基金、王立サン・フェルナンド美術アカデミー
- 【展示内容】 「百鬼夜行絵巻」を中心に、錦絵、着物、帯、根付、印籠、武器、焼き物など83点を、学術的な解説とともに展示(三次市所蔵品のみで構成)
- 【キュレーター\*】 湯本豪一、ダニエル・サストレ(マドリード自治大学准教授)
- 【特別協力】 広島県三次市
- 【助成】 公益財団法人 東芝国際交流財団

※キュレーターとは？  
作品収集や展覧会企画を行う専門職。管理責任者。

## 「スペイン展」に出展する資料の一部を紹介します

たくましい想像力によって生み出された妖怪たち。「スペイン展」は、「妖怪」というテーマを通して、日本人の想像力の広がりや表現の多様性を味わうことができる作品構成（全83点）となっています。



みなものよりまさぬえたいし  
「源頼政鶴退治」(江戸時代)歌川国芳

弓の名手・源頼政が鶴を退治するという有名な話を題材にした錦絵。頼政の矢で射とめられた鶴が、ものすごい形相で暗雲立ち込める空から落ちてくる場面をとらえている。

※鶴(ぬえ)は、頭は猿、尾は蛇、手足は虎という想像上の生き物。



いのうものけるくえまさ  
「稲生物怪録絵巻」(江戸時代)(部分)



ろくるくびつば  
「轆轤首図鑢」(江戸時代以降)

※鑢(つば)は、刀の柄と刀身との間に挟んで、柄を握る手を防護するもの。



からすてんぐねつけ  
「烏天狗根付」(江戸時代)  
※根付は煙草入や印籠などを帯にはさんで腰に下げるときに、落ちないように紐の端につけるもの。



したきりすずめいんろう  
「舌切り雀図印籠」  
(江戸時代以降)



ひゃくやぎょうずさ  
「百鬼夜行図皿」  
(明治時代以降)



きゅうびのきつねざしこばんてん  
「九尾の狐図刺子半纏」  
(江戸時代以降)

暗雲がたなびき、稲妻が光る天空に出現した九尾の狐がデザインされている。

## RCCラジオドラマ「口伝 稲生物怪録」こぼれ話 制作者に直接取材をしてきました！

3月24日(土)にRCCラジオドラマ「口伝 稲生物怪録」が放送されました。このドラマの監修者は、稲生物怪録研究の第一人者で、湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次ものけミュージアム)のアドバイザー委員である杉本好伸さんです。お笑い芸人のアンガールズやRCCの人気パーソナリティなど約40人が出演しました。RCC(株式会社中国放送)を訪問し、制作者の笠間さん、森下さんのお二人に、このドラマが誕生した経緯や演出の工夫、出演者の様子などを伺いました。

### Q1 なぜ「稲生物怪録」をラジオドラマの題材にしようと思ったのですか？

**森下さん** 生まれが三次(十日市)なので、三次市内にはよく来ていて、稲生物怪録の絵巻物の展示も見に行っていました。「稲生物怪録」は、妖怪談のなかでは日本が誇る長編の物語であり、常々、ラジオドラマのテーマにしたいと考えていました。昨年の夏頃からドラマの話が具体化し、ちょうどタイミングが合って制作の運びとなりました。

**笠間さん** 私も広島出身ですが、三次の妖怪話は以前から知っていて、なぜ三次に妖怪が出たのか不思議に思っていました。國前寺(広島市東区)には、魔王が平太郎に授けたとされる木槌があります。そこからこの物語に引き込まれ、ぜひ広島の人々に聞いてもらいたいと思いました。この物語の番組をつかって音にし、後世に残すことに意義がある。良い作品ができるだろうという強い思いがありました。



株式会社中国放送  
ラジオ局ラジオ制作部 部長  
笠間英紀さん

「稲生物怪録」を多くの人に知ってもらいたい...

### Q2 制作や演出の面で、工夫された点、苦労された点を教えてください。



株式会社RCCフロンティア  
制作部 副部長(ディレクター)  
森下朋之さん

このラジオドラマで、局全体が「ものけ色」に染まりました！

**森下さん** 「稲生物怪録」は、文章や絵巻など様々なかたちで伝えられてきました。「文や絵などはあるが音のドラマがない、音で動きをつけたらどうなるか」を考えました。ドラマの効果音はすべて人の声です。挑戦的な試みでした。物語を親が子へ声色しながら伝えるイメージ、絵本の読み聞かせをしている雰囲気を出したいと思いました。効果音は、数パターン収録し、それらを組み合わせました。イメージと違っている場合は録り直したこともあります。

監修は杉本先生にお願いし、時代考証の点でも恥ずかしくないものができたと思っています。杉本先生の指導のもと、原本の訳から取り組みましたが、1か月近くかかりました。ドラマ自体は、杉本先生にも大変喜んでいただき、制作して良かったと思いました。

### Q3 出演者の皆さんの反応は怎么样了か？

**笠間さん** 通常、ラジオドラマの演じ手は2、3人ですが、この番組は約40人が参加しています。出演者に「ラジオドラマをつくらうと思う。三次の妖怪の話なんだけど…」と言ったときの反応は、皆「やりたい！やりたい！」でした。この番組にはRCCのパーソナリティが多く出演していますが、皆、楽しんで演じてくれました。泉水アナウンサーは今でも役名(妖怪くるくる)で呼ばれていますよ(笑)。出演者3、4人での収録はまさにチームプレイで、一体感が生まれました。出演者それぞれがパーソナリティをつとめる番組でドラマの話をし、リスナーがその話に食いつく。「稲生物怪録」で、こちらが遊ばせてもらったという感覚です。

### Q4 リスナーの反応は怎么样了か？

**笠間さん** ホップな感じで仕上げたので楽しんでもらえたと思います。ラジオドラマを多く聞いてくださっている方からは、「妖怪の話なのに怖くなかった」という反応をいただきました。

### Q5 最後に一言お願いします！

**笠間さん** **森下さん** このラジオドラマの制作を通して、三次の貴重な財産である「稲生物怪録」を「音」というかたちで残すことができました。今後、RCCでは民話の番組を制作する予定です。地域に根付く民話の掘り起こしが地域財産の発見、継承につながると考えていますので、これからもよろしくをお願いします！

### 「どろん！稲生亭」

